

郷土史への扉

今年是国内最後の内戦「西南の役」が終結し、西郷隆盛が没して一四〇年の節目の年です。

今回は、霧島北部(牧園・横川)で起

西郷隆盛と霧島

「西南の役」と霧島の戦役跡

きた戦いについて紹介します。

霧島北部での戦い

前回、西南の役の経緯と共に霧島での戦いを紹介しましたが、霧島北部地域での戦いは、明治十年七月初旬と八月下旬に二回起きています。

一回目は、薩摩軍が熊本方面での戦いに敗れ、人吉から都城へと拠点を後退しながらも、官軍の進攻を食い止める戦いでした。二回目は、宮崎県延岡の可愛岳を突破した薩摩軍が故郷である鹿児島へ戻る直前の戦いでした。

いずれも江戸時代から利用されてきた主要街道筋に陣を配し、官軍の進攻

に相対しました。陣地(※堡塁)は急ごしらえで、官軍が進攻予定のルートを見下ろす高台に造るなど、地形を利用した簡素なものとなっています。

戦役跡③ (牧園)

薩摩軍の辺見十郎太が率いる三番大隊第一小隊(別名・雷撃隊)は、牧園の踊を拠点として陣営を整えました。



牧園総合支所から約3km北東にある堡塁跡

牧園での七月の戦い

その陣容は万膳の浅谷から隼人境の踊城跡辺りまでの南北七キロ、東西五キロの範囲に三百を超える堡塁を築きました。これらの一部は現在も残っています。牧園での戦いは七月一日から七日にかけてありましたが、薩摩軍は形勢が不利になり都城方面に退きました。その後、延岡から撤退して鹿児島を目指してきた薩摩軍本隊と官軍との戦いが八月三十日に牧園で起きました。その夜、西郷は宿窪田の前田万兵衛宅に宿営し、翌日の未明に鹿児島へ出発しました。当時、地元の人々は七月の薩摩軍敗退を「踊の一度敗れ」、八月を「踊の二度敗れ」と呼んで残念がったと語り継がれています。

戦役跡④ (横川)

横川には、五月から六月にかけて薩摩軍の本営が置かれ、桂久武らが募兵や弾薬製造、軍費調達などの兵たん任務を行いました。

横川で行われた最も激しい戦いは、牧園と同様の七月一日と八月三十日です。七月は横川の山之口に布陣する辺見十郎太らが指揮する薩摩軍と、人吉を陥落させ大口方面から追撃してきた官軍との戦い、八月は西郷を鹿児島に逃がすため、二石田から深川方面において二十時間に及ぶ戦いが続き多くの



横川での戦い

戦死者を出しました。横川山之口公民館近くの山林や、横川物産館から丸岡公園に行く途中には、当時の激戦を示す堡塁跡が現在も残っています。

(文責 鈴)

※1 敵の攻撃を防ぐための土砂などで作った陣地。
※2 薩摩藩家老で薩長同盟に尽力する。霧島の桂内地域を開墾。

西南の役 ~戦跡を訪ねる~

県文化財保護指導委員の手嶋正次さんが、霧島で西南の役がどのように展開したのか講義し、午後は牧園の堡塁跡をバスで巡ります。

- 日時=11月26日(日)午前9時~午後5時
- 集合場所=牧園総合支所
- 定員=25人(申し込み多数の場合は抽選)
- 参加料=1,500円
- 申込期限=11月10日(金)

問・申=社会教育課 ☎(64)0708

きりしま歴史散歩

